

「激闘！シングルマザー17才の決断」を見て

先に当 HP「ドキュメンタリー番組：『コウノトリはどこへ』を見て（「雑学BN」のマスコミ等コメント関係（IV）、2007.08.28.参照）」で触れたが、「18歳以下では80%ができちゃった婚、20歳未満の人工中絶件数・年間約3万件」のデータを知るだけに、結婚に至らず、しかも中絶を選択しなかった少女たちの心の内を垣間見ることが出来るかなと思っていた。

昨日、小学3年生の時に母の家出から家族が崩壊、15才の時に妊娠し16才で出産、17才の今、シングルマザーとして生きる決断をするまでの少女を追ったドキュメンタリー番組「激闘！シングルマザー17才の決断～それでも私はあなたを離さない～」の放送を知り見た。

少女は母親の家出以降、寂しい日々の中で同じような境遇の2才年上の彼と出会い、付き合い妊娠し、子どもを生んで二人の夢であった暖かい家族を築こうと話し合っていたが、妊娠8ヶ月の時にその彼とも破局。

お腹の中で息づくわが子との家族を夢見て出産するも、2人切りの淋しさから、遠くに住む母を初めて尋ね、母子としての関係も修復し、母の、また、母の今の彼の「一緒に住んでもいいよ」の言葉で1ヶ月共に生活するも、新しい生活を営む母の元にはやはり自分の居場所がないことを気づく。

また、母の家出間もなく同様に家出した姉を尋ねるも、姉の元で一緒に生活することも叶わず。

再び、故郷に戻り、1才になったわが子のためにシングルマザーとして生きていくことを決断するまでの心の葛藤のドキュメンタリーであった。

仕事を探し続けるも現実は厳しく、幼児を持つ少女の働き先は中々見つからず落ち込む少女、「母親や姉に頼ろうなど中途半端な気持ちでなく、子どもために真剣になれ！いつでも助けるから…」と、わざわざ訪ねてきて励ます結婚間近の若い兄。

番組は今の少女の現実で終わっていたが、見終わって、一方で母親である前に一人の少女としての心の居場所を求め、一方で母親としての現実の壁と葛藤しつつも、幼い少女なりの子育ての様子のけなげさが何とも切ない。

改めて、家族とは何か？心の居場所があるところこそ「家族」と云う呼称がふさわしいのではないか？ 等々、あれこれ考えさせられた。